資料６－３③
（平成29年度第１回血液事業部会適正使用調査会資料）

病院外輸血

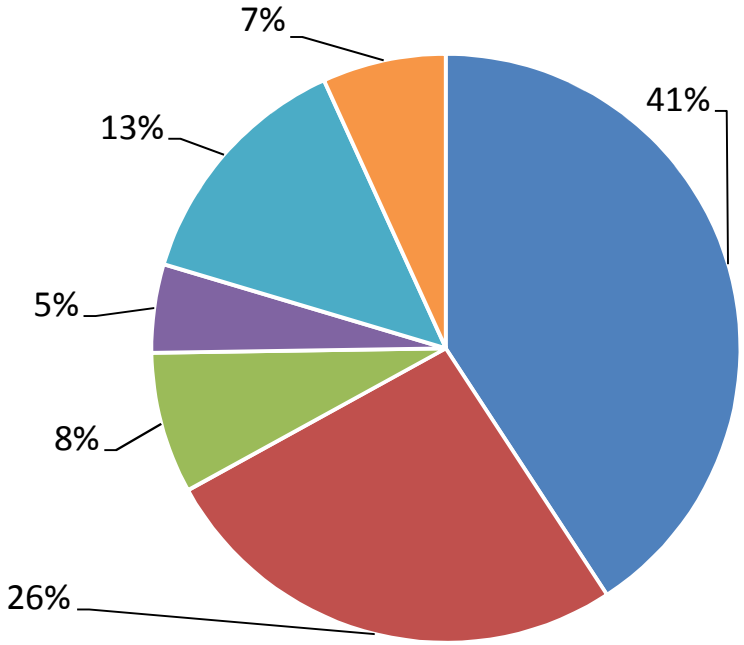
青森県立中央病院　臨床検査部
福島県立医科大学　輸血・移植免疫部
北澤淳一

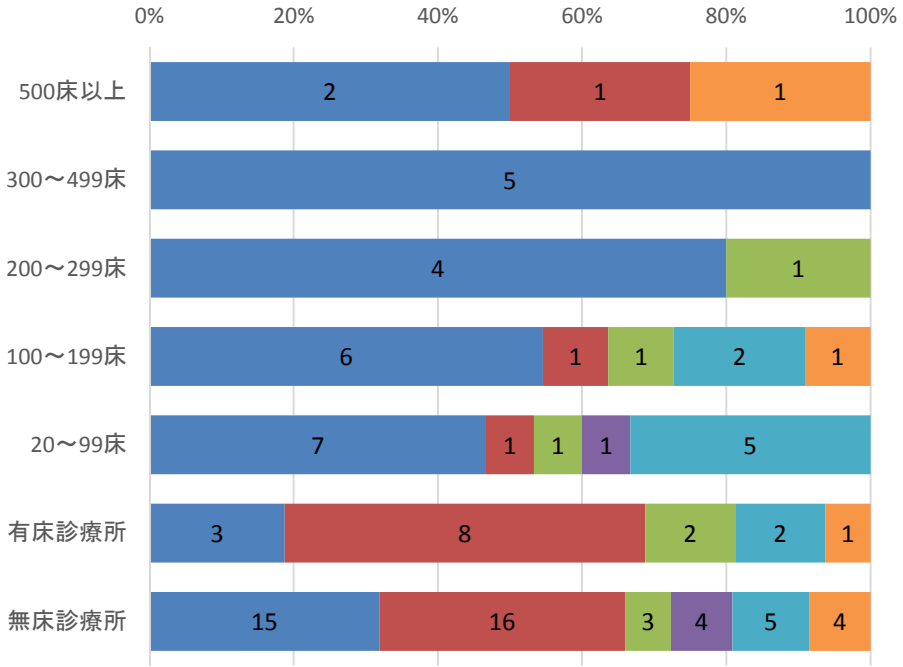
対象および言葉の定義

- 平成28年度調査において、平成28年1年間に病院外輸血を実施した、と回答した施設について検討した。
- 以前からの分類を使用し、規模別病院の定義は、大規模病院＝500床以上病院、中規模病院＝300～499床病院、小規模医療機関＝0～299床病院・診療所とした。
- この検討では、小規模医療機関を、さらに200～299床病院、100～199床病院、20～99床病院、有床診療所、無床診療所に分類して検討した。

Aomori Prefectural Central Hospital

病院外輸血の実情



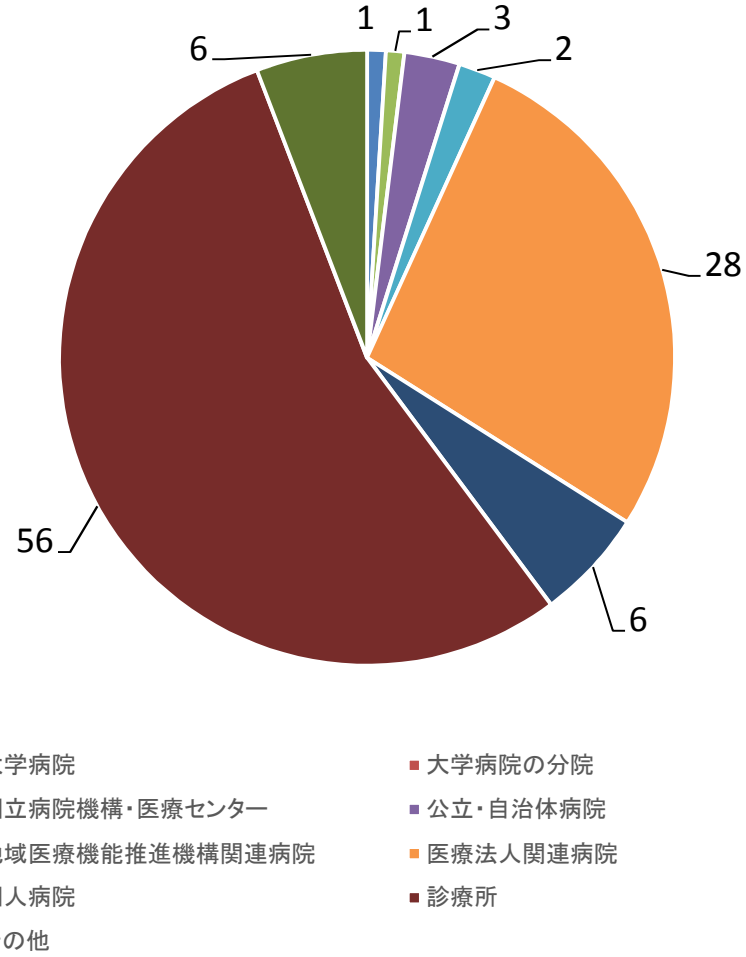


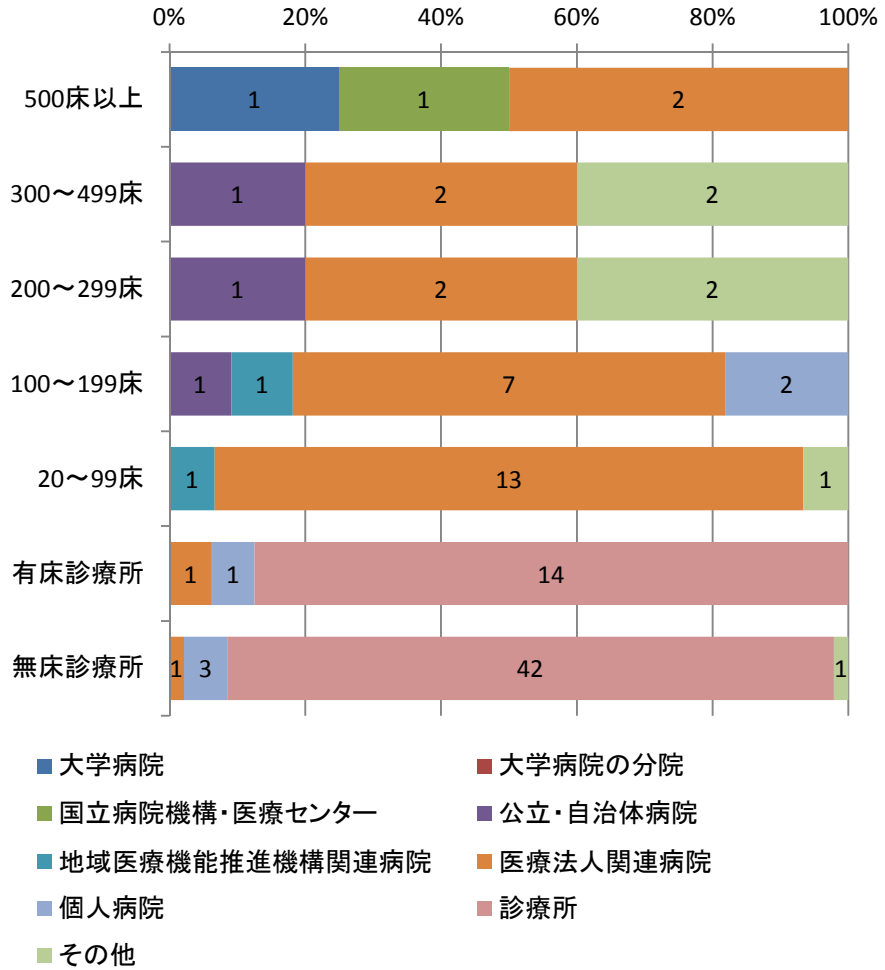
- 関連病院と連携して在宅で実施した
- 関連病院と連携なく在宅で実施した
- 関連病院と連携して介護施設・在宅両方で実施した
- 関連病院と連携なく介護施設・在宅両方で実施した
- 関連病院と連携して介護施設で実施した
- 関連病院と連携なく介護施設で実施した

在宅82施設、介護施設34施設（重複あり）
連携病院あり64施設、なし39施設

Aomori Prefectural Central Hospital

病院形態

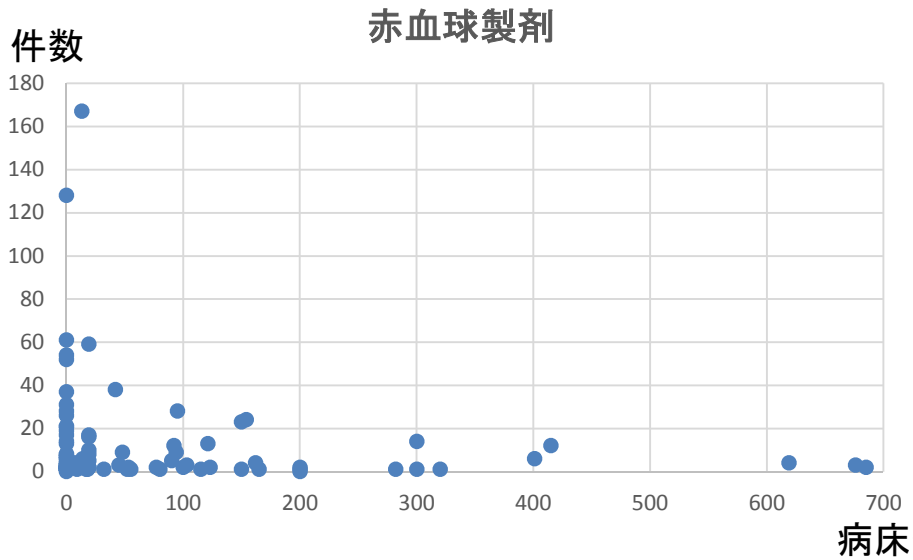


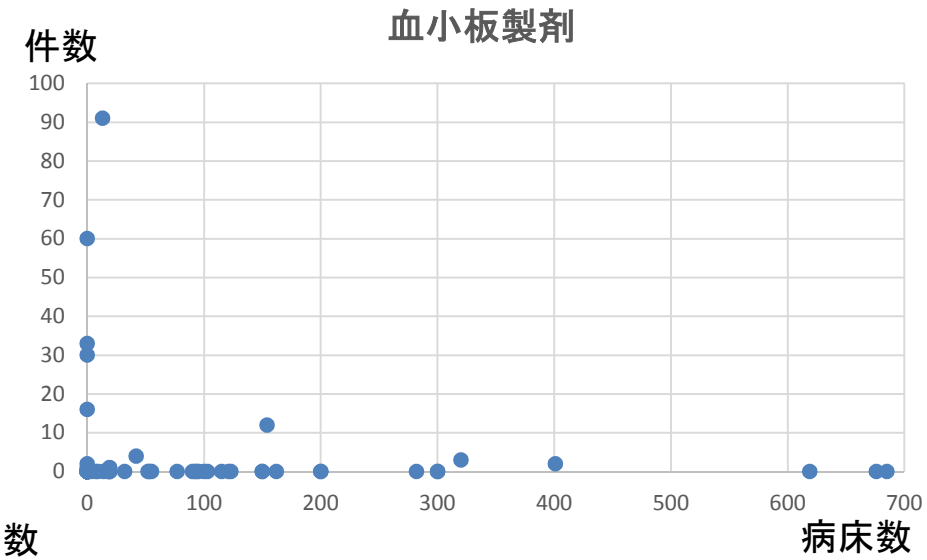


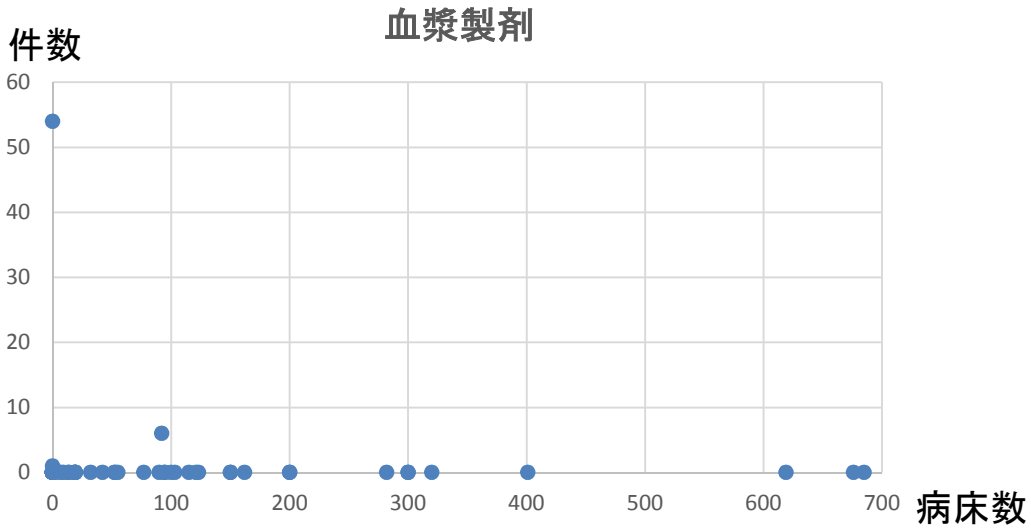
	500床以上	300～499床	200～299床	100～199床	20～99床	有床診療所	無床診療所
施設数	4	5	5	11	15	16	47

Aomori Prefectural Central Hospital

年間病院外（介護施設・在宅）輸血述べ件数

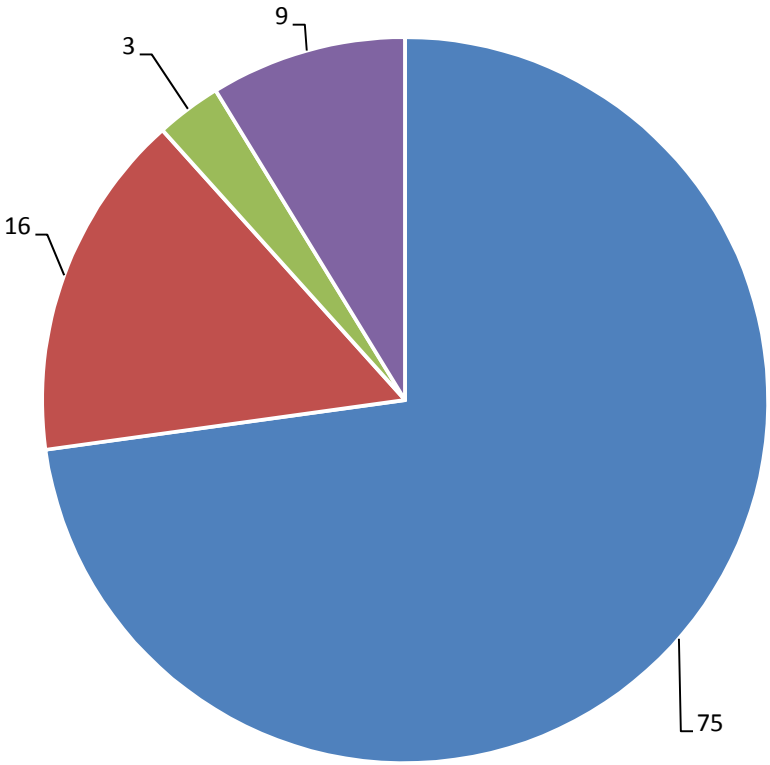


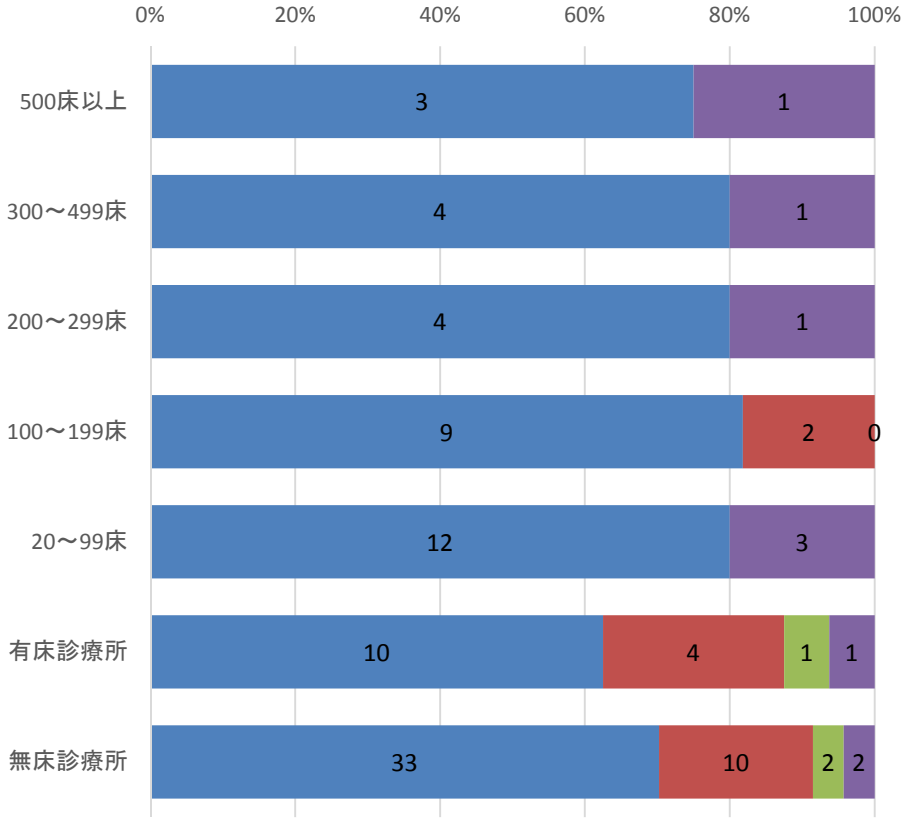




Aomori Prefectural Central Hospital

病院外（介護施設・住宅）輸血後の患者観察（5分後、15分後）は行っているか

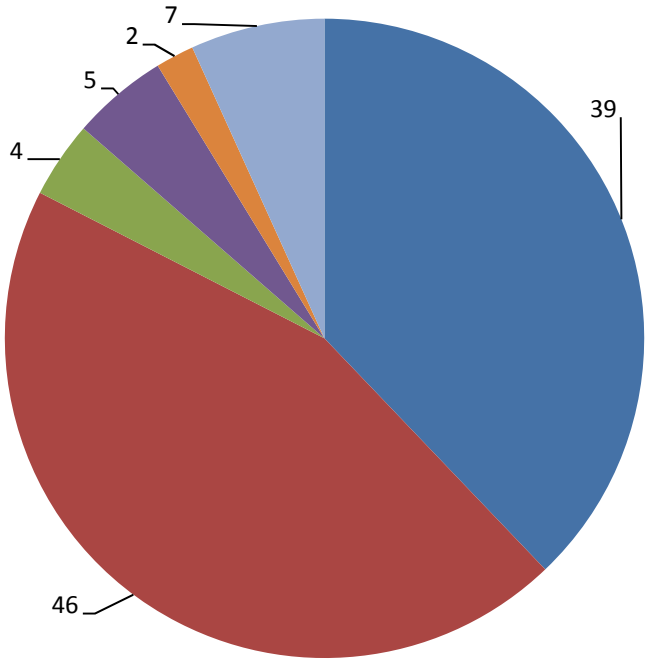


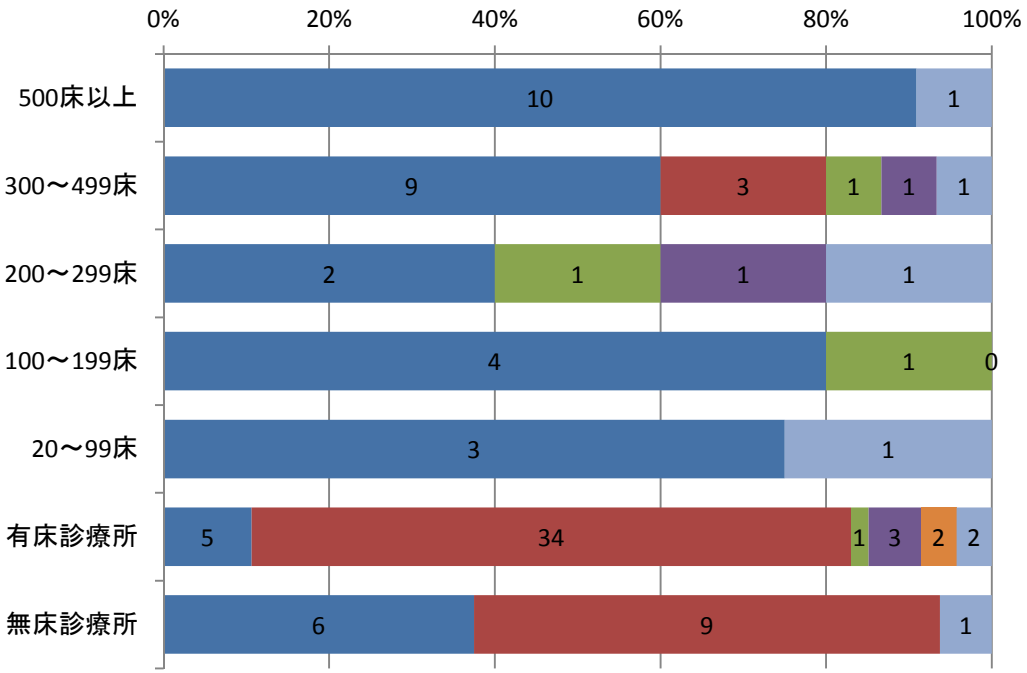


■ 病院内輸血と同様に行っている
■ 不十分ながら担当者が行っている
■ ほとんど行っていない
■ 未回答

Aomori Prefectural Central Hospital

病院外（介護施設・住宅）輸血を行う場合に交差適合試験を実施しているか

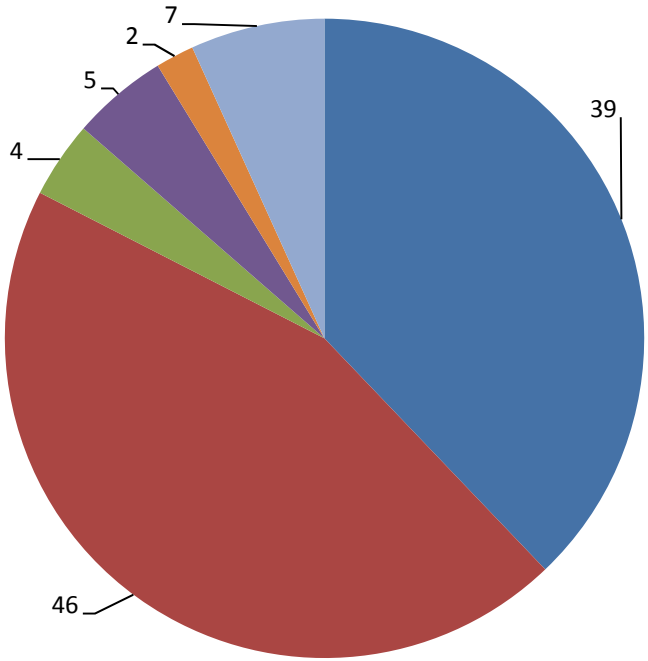


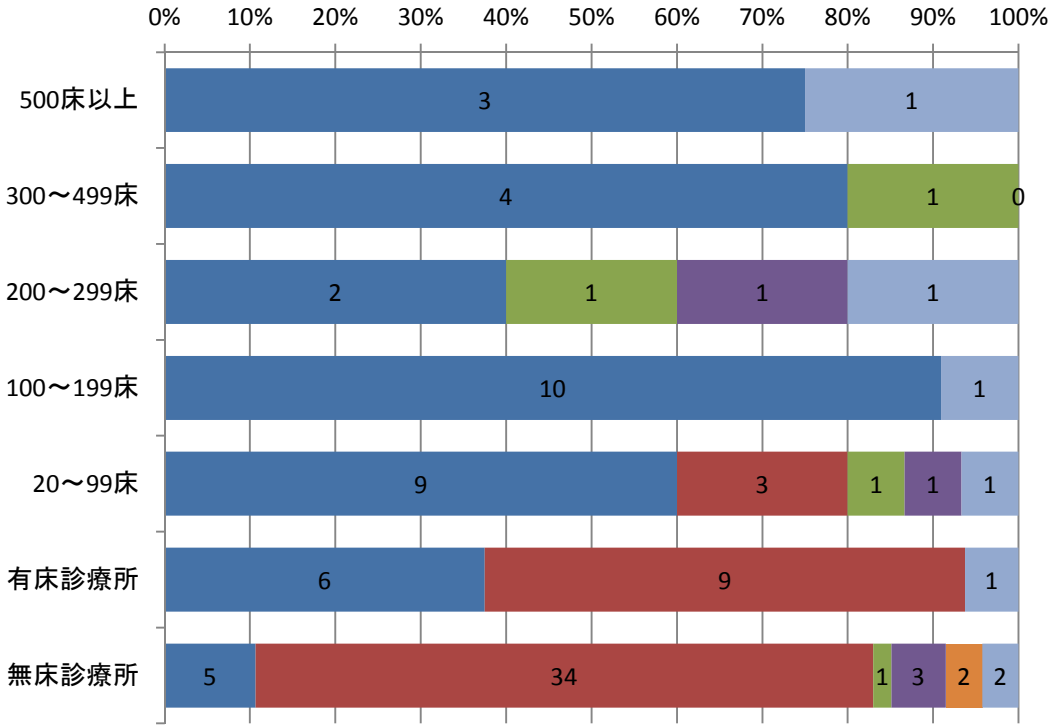


- 自院で必ず行っている
- 関連病院で必ず行っている
- 症例によって実施したりしなかったりする
- 未回答
- 院外の検査センターで必ず行っている
- 自院、院外の検査センターもしくは関連病院で必ず行っている
- 実施していない

Aomori Prefectural Central Hospital

病院外（介護施設・住宅）輸血を行う場合に交差適合試験を実施しているか

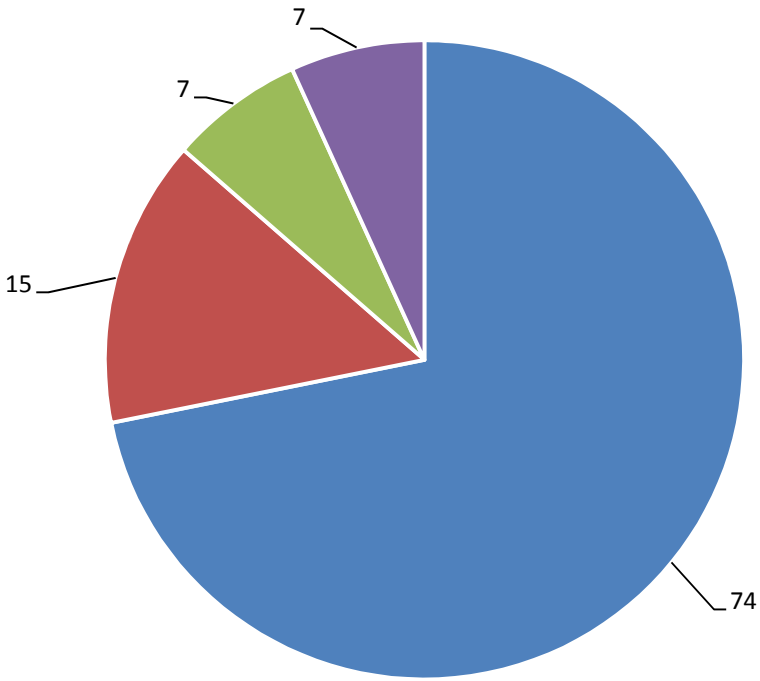


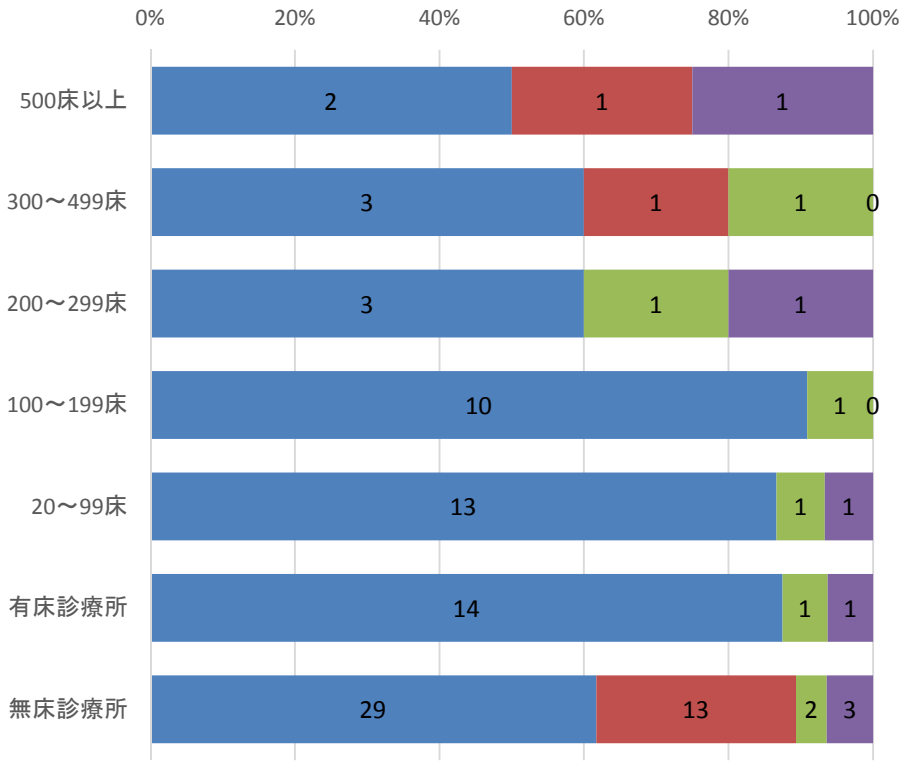


- 自院で必ず行っている
- 関連病院で必ず行っている
- 症例によって実施したりしなかったりする
- 未回答
- 院外の検査センターで必ず行っている
- 自院、院外の検査センターもしくは関連病院で必ず行っている
- 実施していない

Aomori Prefectural Central Hospital

インフォームド・コンセント(IC)について

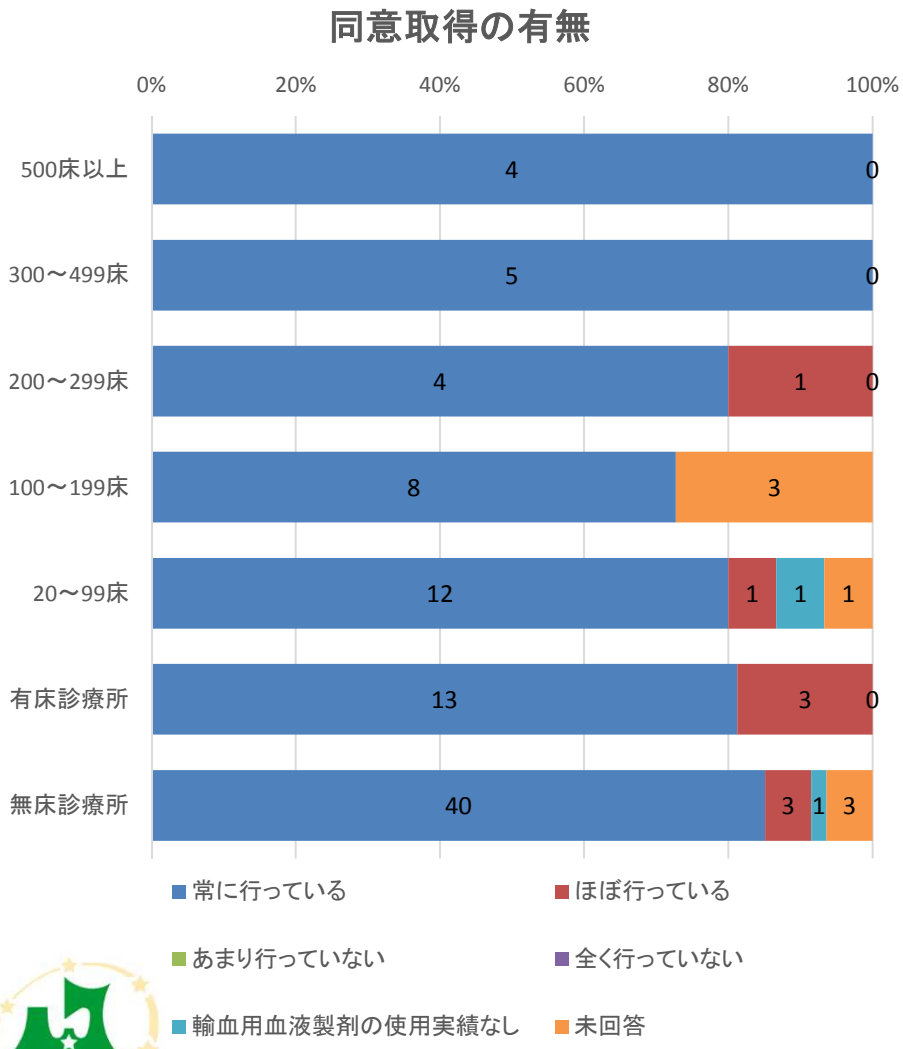


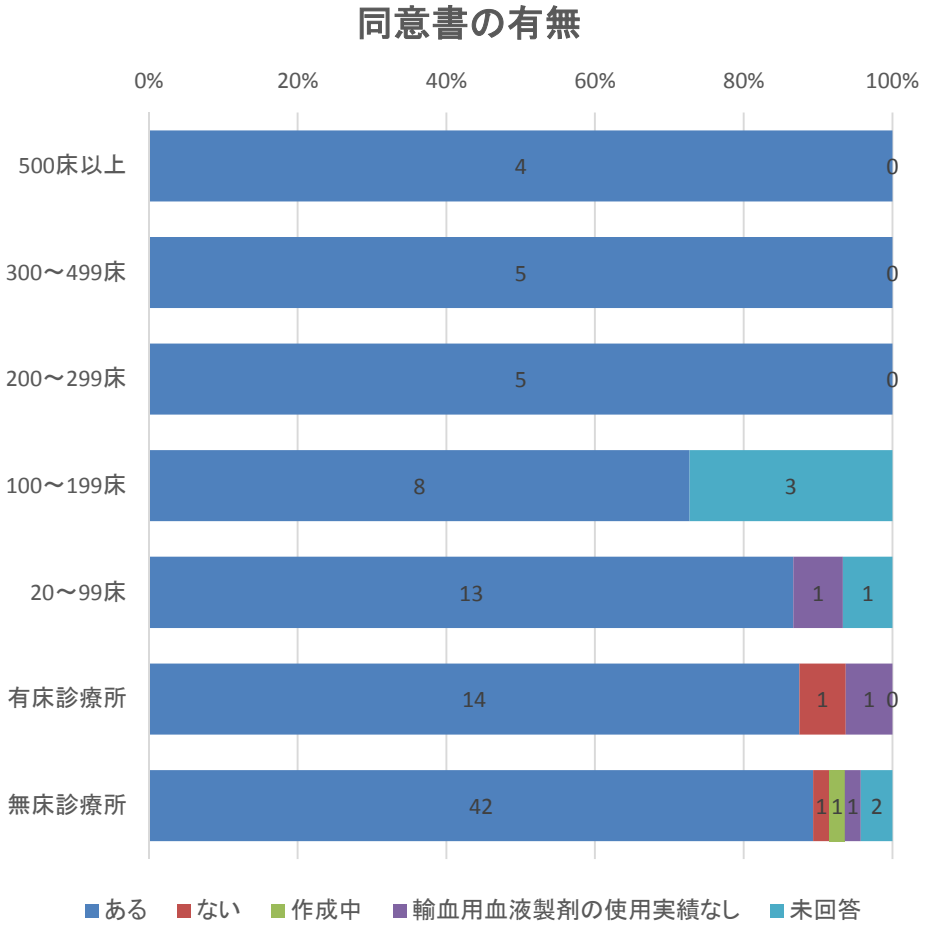


- 病院内輸血と同じ説明・同意書で行っている
- 病院外（介護施設・在宅）輸血用の説明・同意書を別に作成し使用している
- その他
- 未回答

Aomori Prefectural Central Hospital

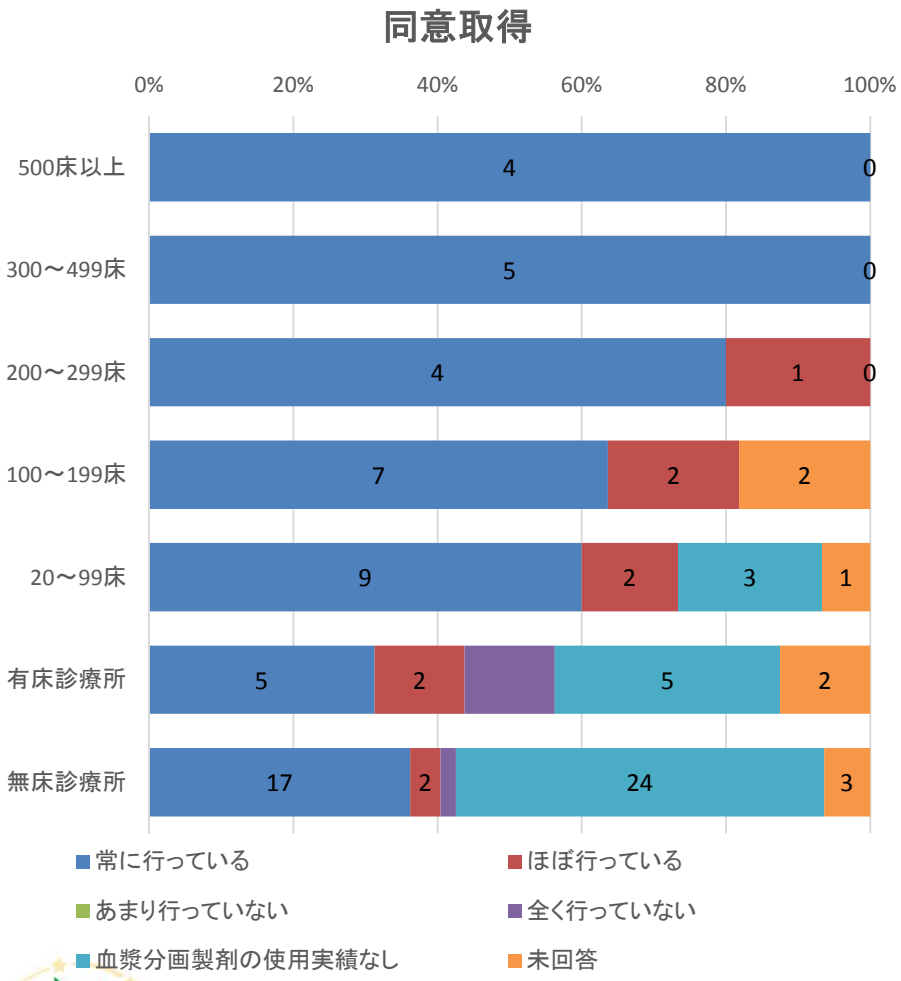
輸血用血液製剤投与時

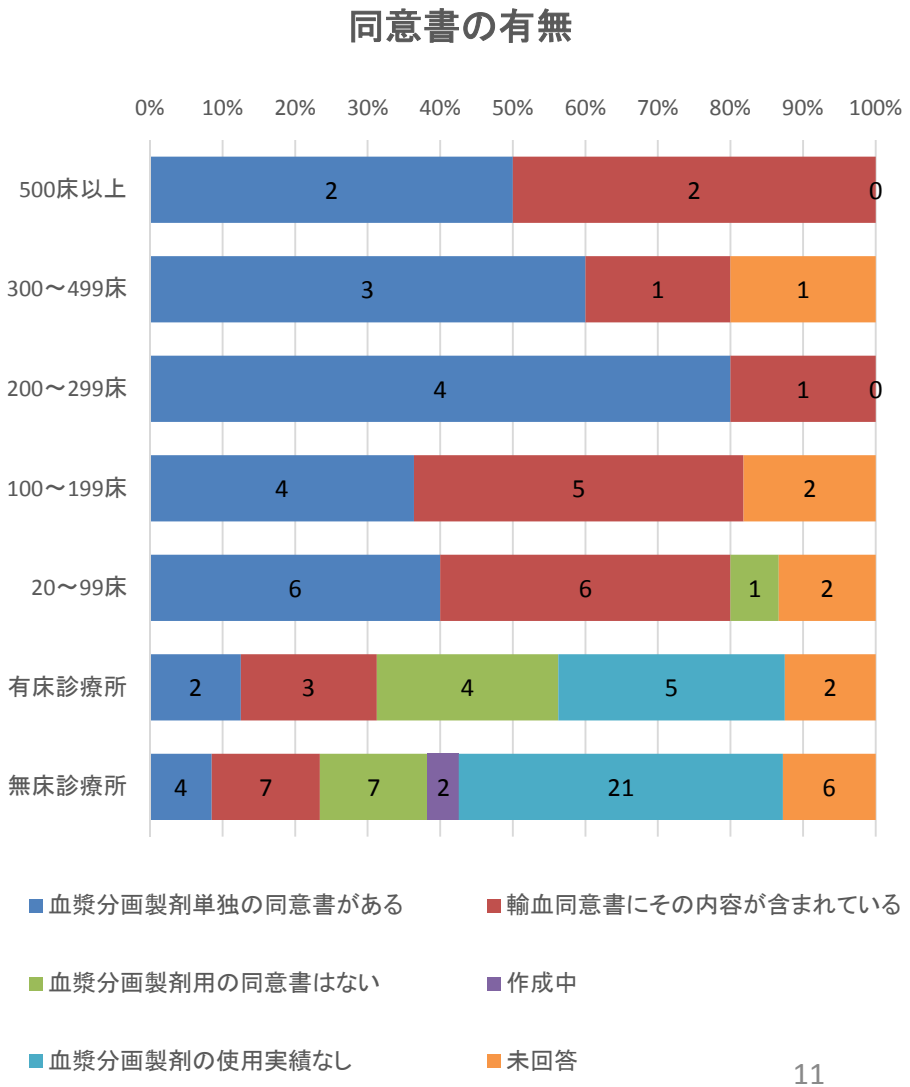




Aomori Prefectural Central Hospital

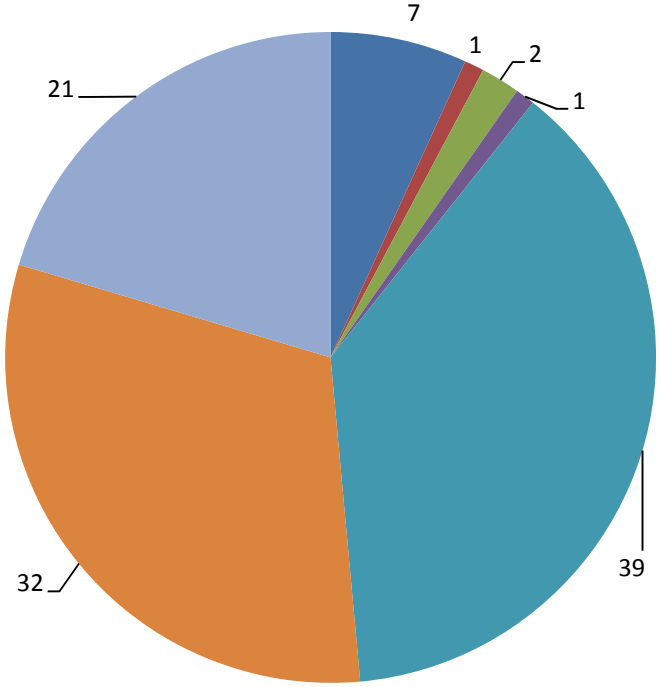
血漿分画製剤投与時

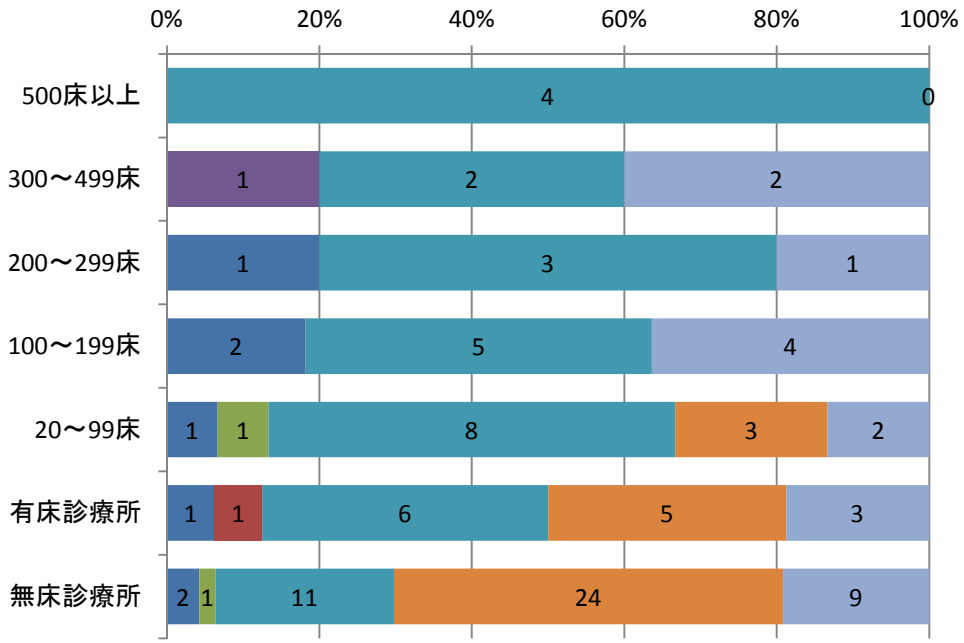




Aomori Prefectural Central Hospital

血漿分画製剤投与に際し原料血液の献血・非献血の情報を提供するか

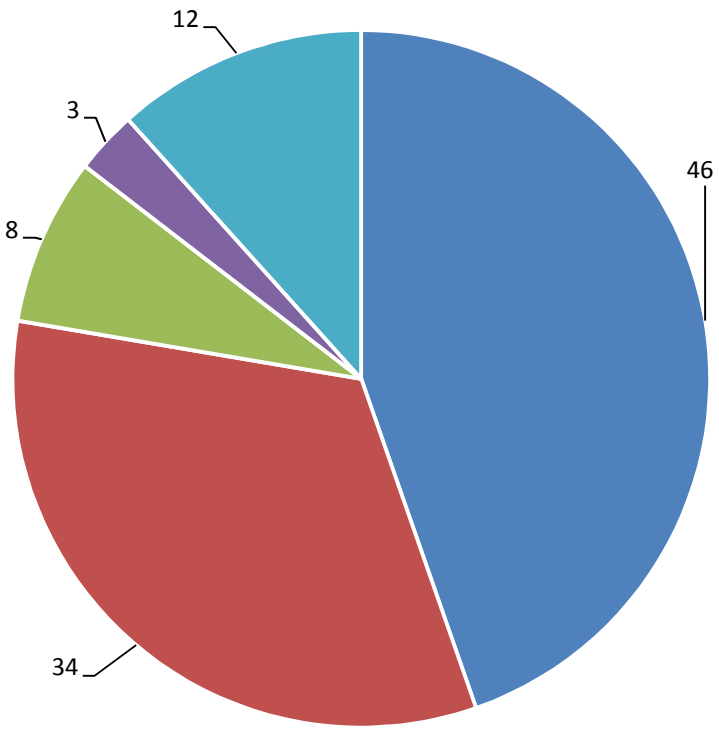


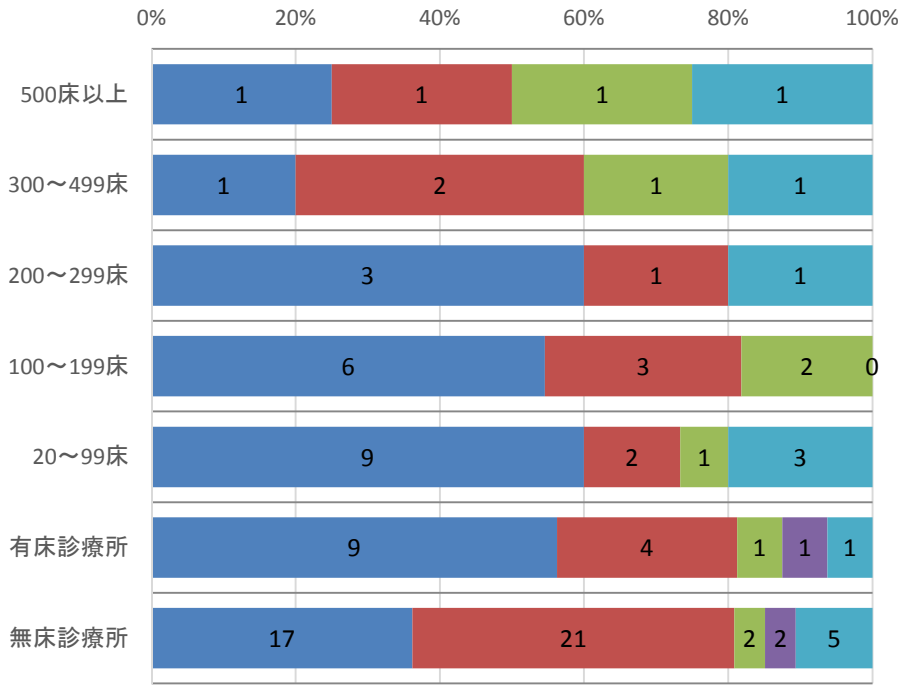


- 常に行っている
- 採血国が日本の場合行っている
- 採血国が外国の場合行っている
- 両方が院内採用されている製剤の場合行っている
- 全く行っていない
- 血漿分画製剤の使用実績なし
- 未回答

Aomori Prefectural Central Hospital

病院外（介護施設・住宅）輸血後の副作用発症時の対応策は決めているか

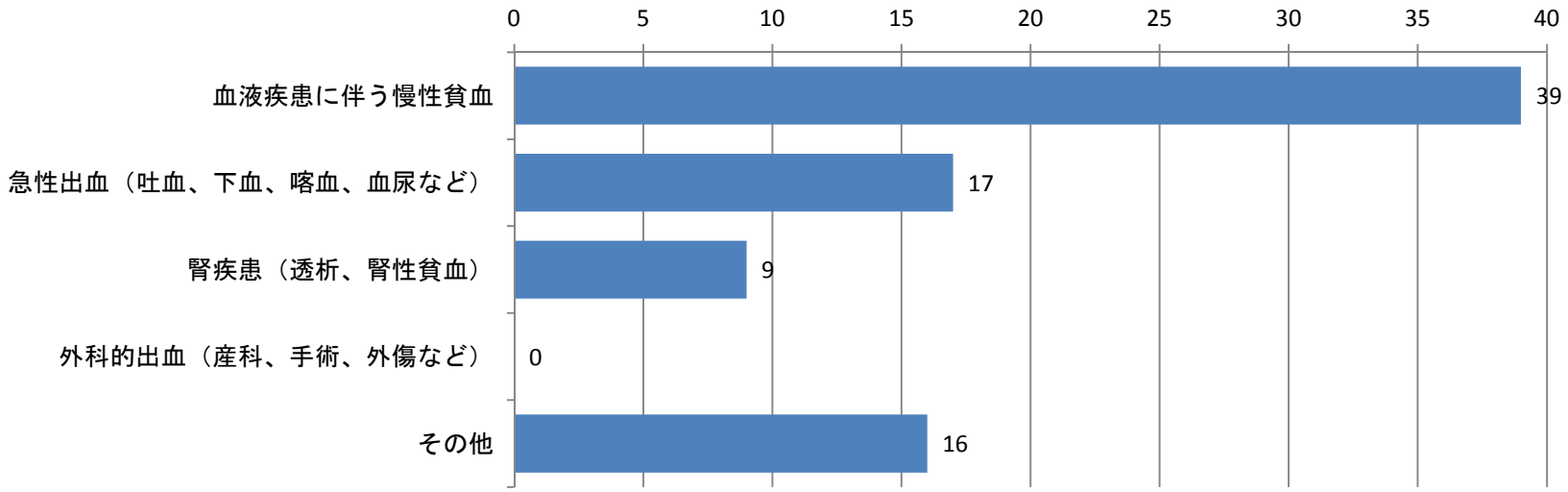




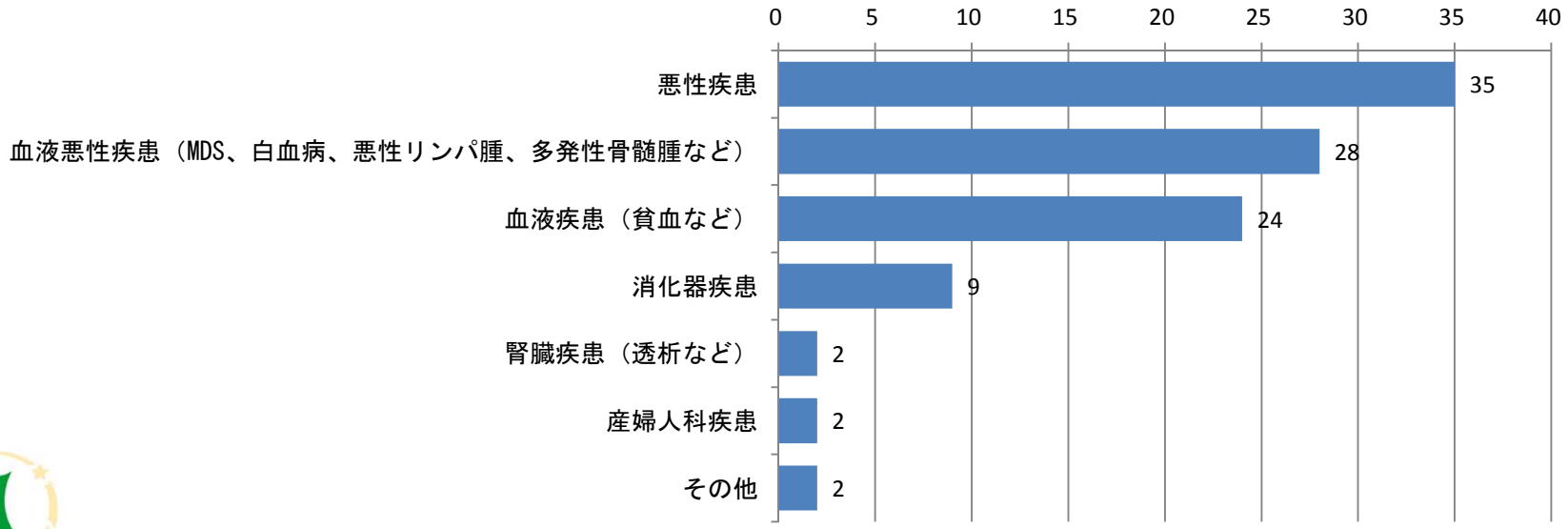
- 病院内輸血と同様に行っている
- 連絡をもらい適切な処置をとるように決めている
- 関連病院と連携ををとり適切な処置を取るように決めている
- 特に決めていない
- 未回答

Aomori Prefectural Central Hospital

赤血球輸血が必要な病態

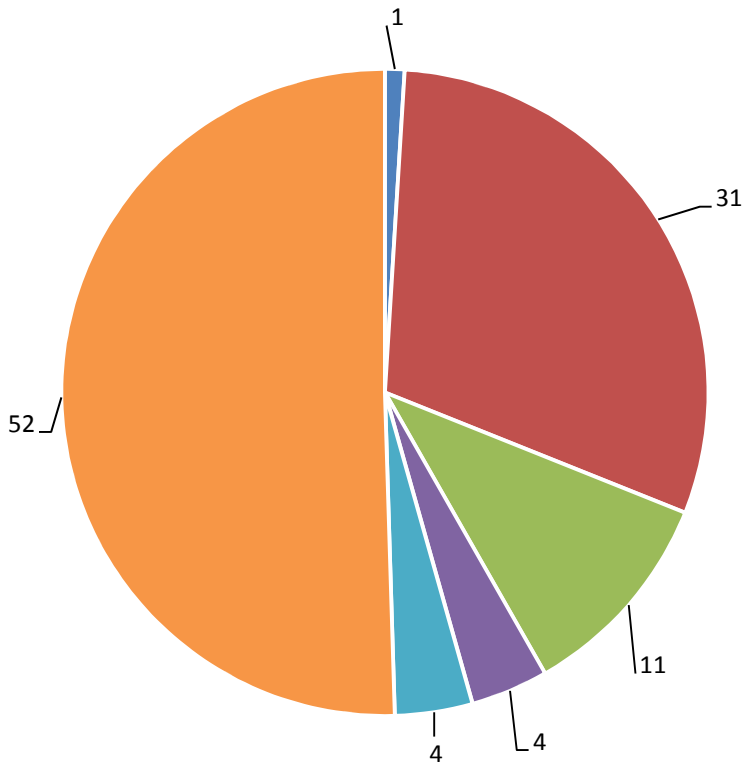


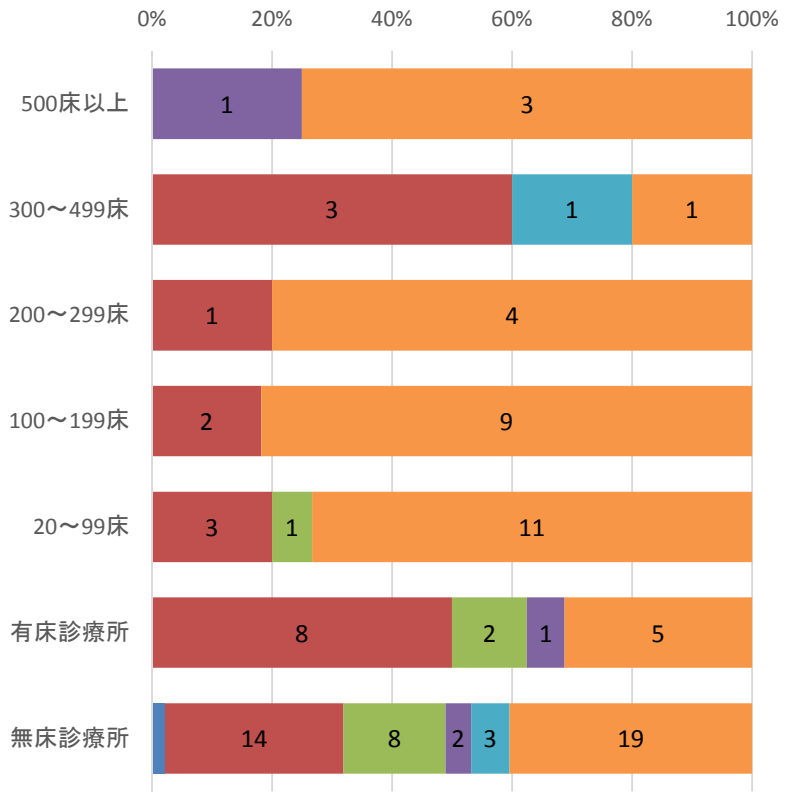
在宅治療を行っている疾患



Aomori Prefectural Central Hospital

通院困難の理由

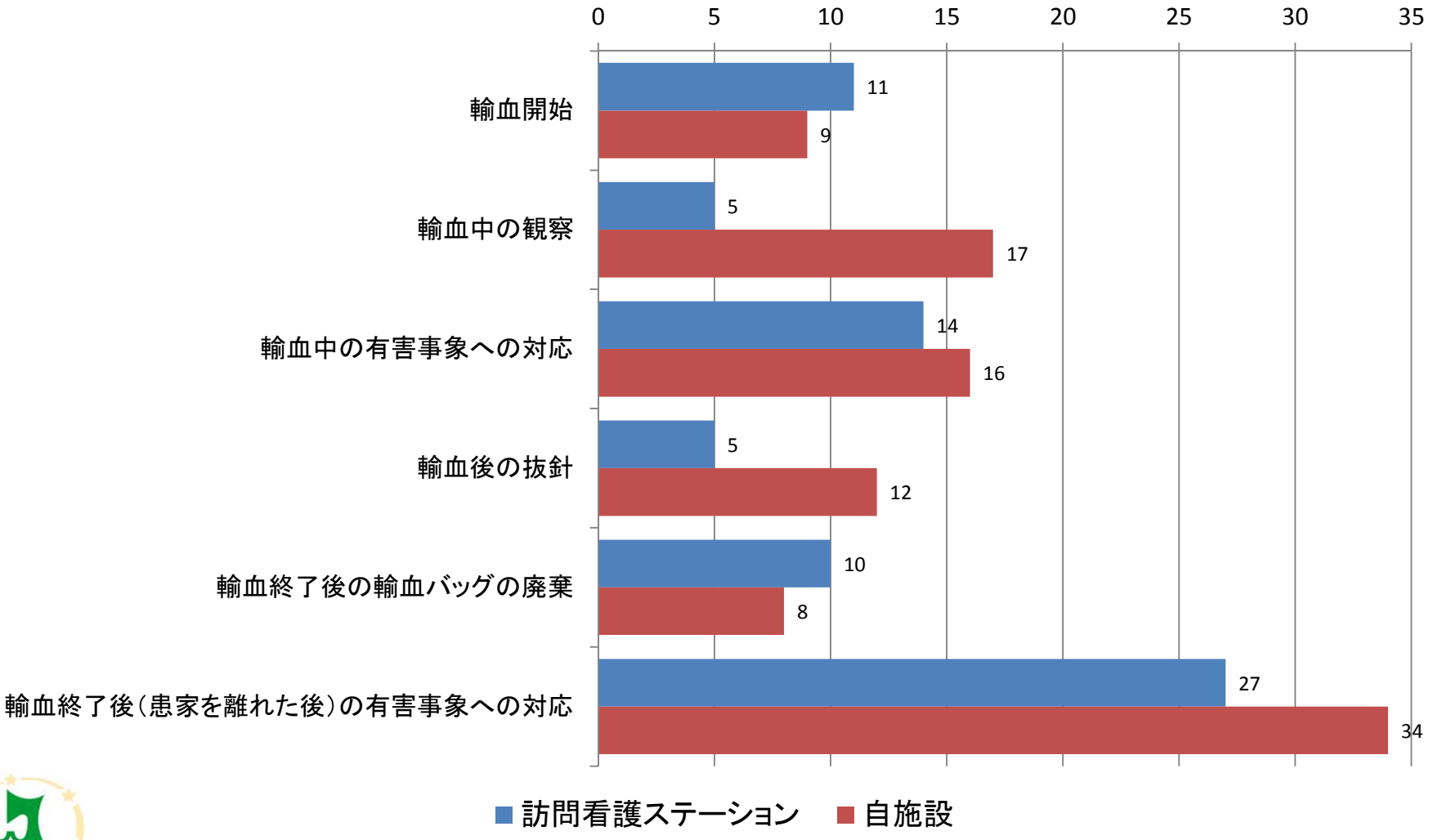




■交通事情 ■寝たきり ■身体障碍 ■認知症 ■その他 ■未回答

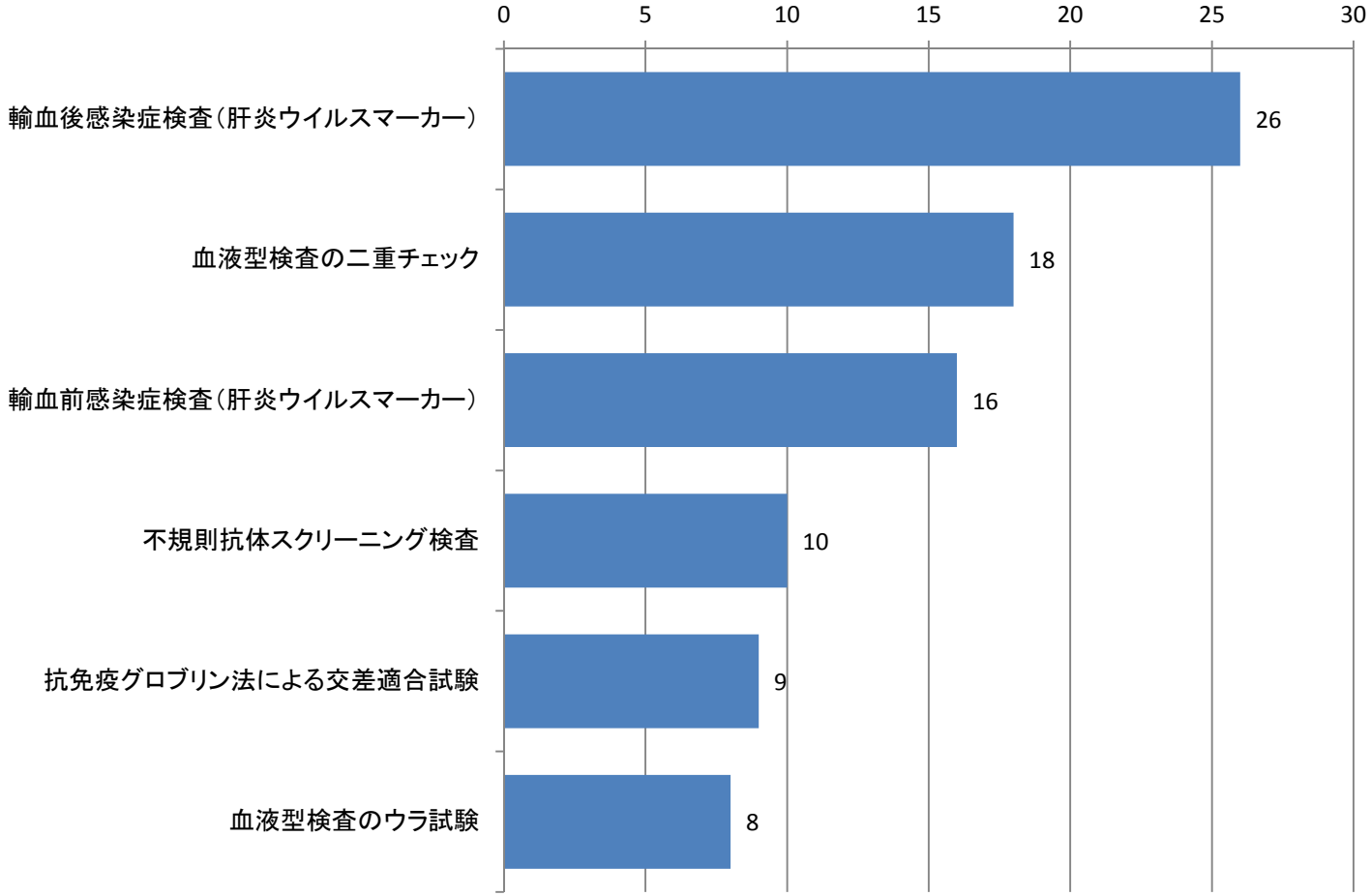
Aomori Prefectural Central Hospital

実施・対応困難な項目



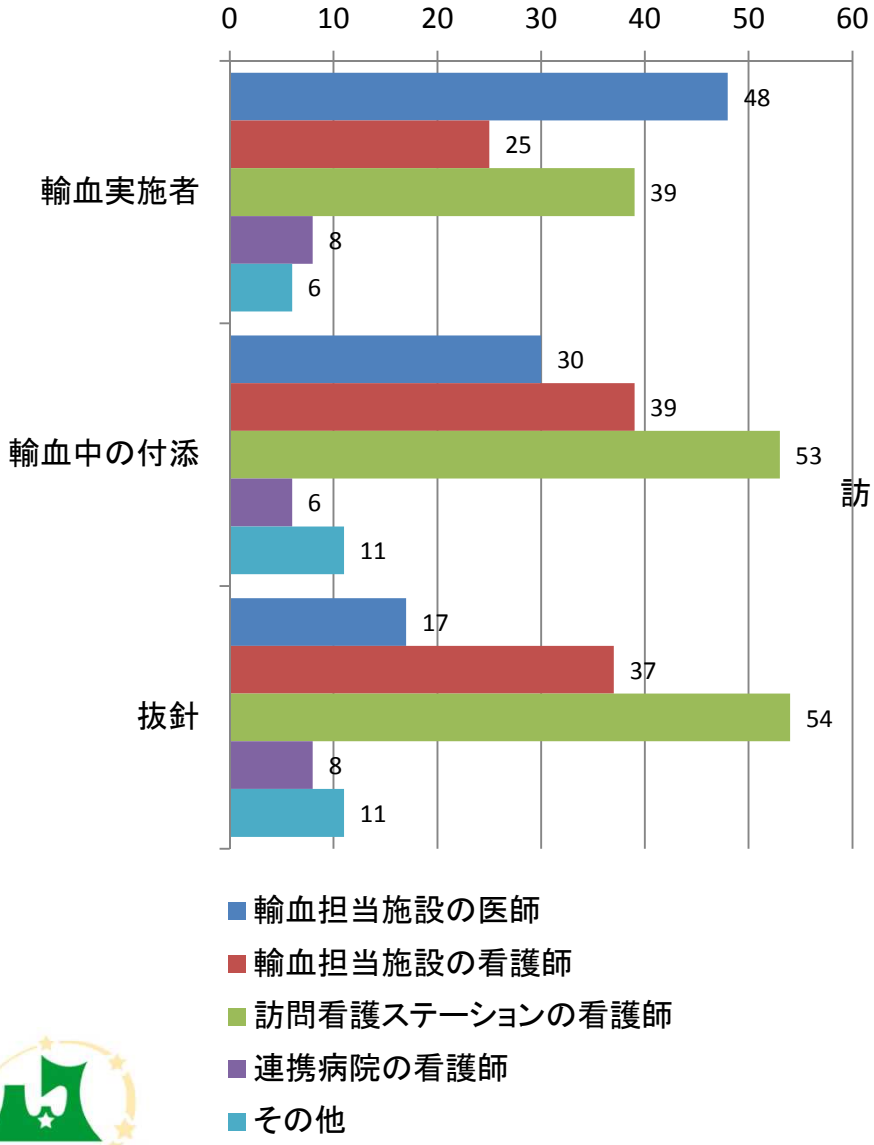
Aomori Prefectural Central Hospital

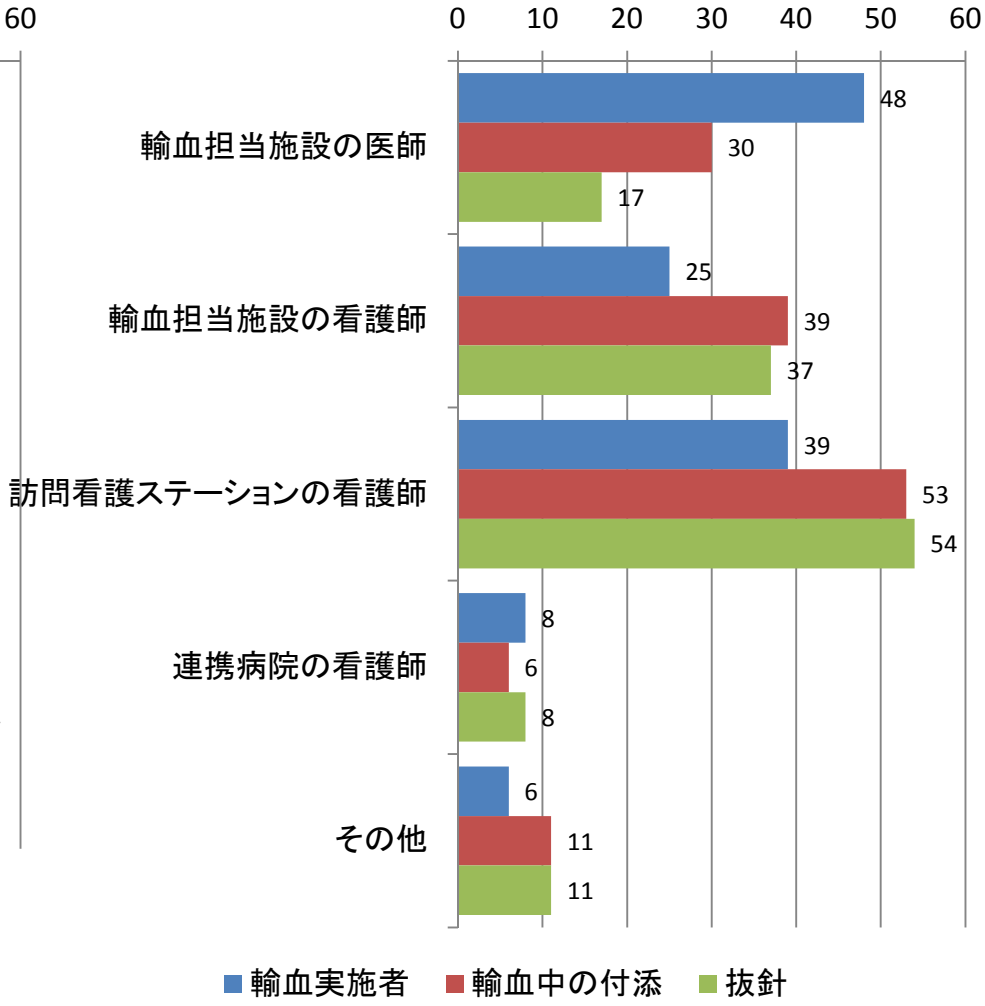
在宅で実施困難な検査項目



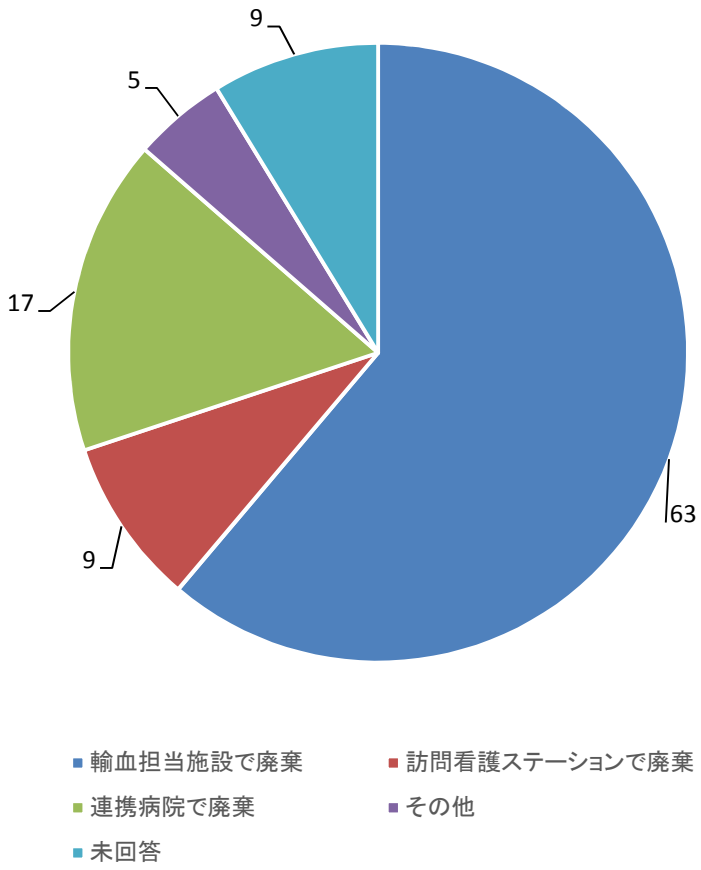
Aomori Prefectural Central Hospital

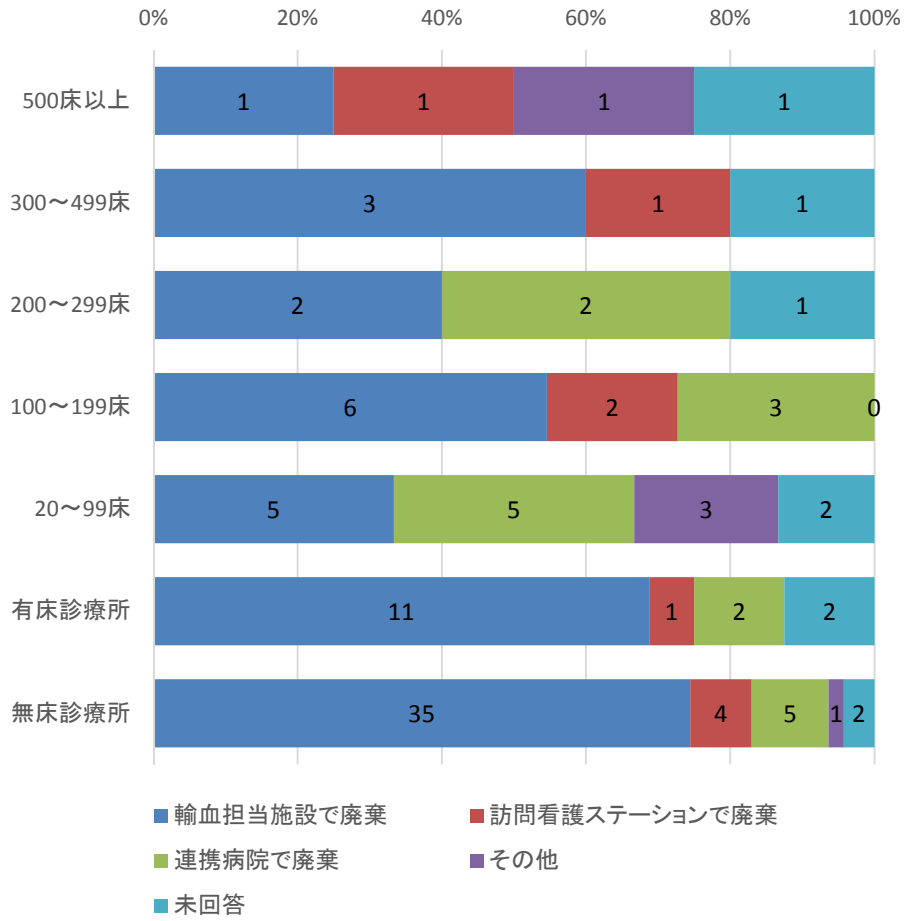
在宅輸血の実施担当者


0
10
20
30
40
50
60
輸血実施者
48
25
39
8
6
輸血中の付添
30
39
53
6
11
抜針
17
37
54
8
11
輸血担当施設の医師
輸血担当施設の看護師
訪問看護ステーションの看護師
連携病院の看護師
その他


0
10
20
30
40
50
60
輸血担当施設の医師
48
30
17
輸血担当施設の看護師
25
39
37
訪問看護ステーションの看護師
39
53
54
連携病院の看護師
8
6
8
その他
6
11
11
輸血実施者
輸血中の付添
抜針

輸血バッグの廃棄方法





Aomori Prefectural Central Hospital

まとめ

- （スライド2、3、4）アンケート回答施設のうち病院外で輸血を実施した施設は103施設で昨年よりわずかに減少した。在宅で実施した施設が82施設、介護施設で実施したのは34施設で（重複あり）、連携病院ありは64施設、なしが39施設であった。病院形態では診療所が最も多く、次いで医療法人関連病院であった。輸血延べ件数でみると、病床数が小さいほど、実施件数が多かった。血小板や血漿の輸血実施施設は少なかったが、最も多い施設は診療所であった。
- （スライド5）輸血中の患者観察（5分、15分）はおおむね実施されていたが、診療所に「実施せず」の回答が見られた。
- （スライド6）交差適合試験の実施については、自施設又は院外検査センターでの実施が多かったが、診療所で「実施せず」の回答が見られた。
- （スライド7、8、9、10）病院外輸血用の説明書・同意書を用いているのは15施設のみであった。
- （スライド11）副作用発生時の対応は、病院内輸血と同様、連絡をもらい適切な処置をとるが多かった。

Aomori Prefectural Central Hospital

まとめ（2）

- （スライド12、13）在宅輸血を行なっている疾患は悪性疾患が最も多く、赤血球輸血の原因もそれに伴う貧血や出血が多かった。通院ができない理由は今回回答に掲げた理由では「寝たきり」が多かったが、未回答が多くほかの理由の存在がうかがわれた。
- （スライド13、14、15）病院外輸血で対応困難な事柄としては、有害事象への対応が最も多かった。自施設（輸血実施施設）で実施困難な事柄では輸血中の観察、輸血中の有害事象への対応、輸血後の抜針があり、訪問看護ステーションで対応困難な事柄としては有害事象への対応であった。在宅輸血の際に実施困難な検査項目としては、輸血後肝炎マーカー検査が最も多く、次いで、血液型の二重チェックであった。
- （スライド16）輸血の実施者（針を刺すことを想定）は、医師・訪問看護ステーション看護師が多く、輸血中の付き添いは訪問看護ステーション看護師・輸血担当施設看護師、抜針は訪問看護ステーション看護師・輸血担当施設看護師が多かった。
- （スライド17）輸血バッグの廃棄は輸血担当施設で廃棄が多かったが、連携病院で廃棄、訪問看護ステーションで廃棄との回答が見られた。

Aomori Prefectural Central Hospital